

愛知県環境審議会騒音振動部会 会議録

1 日 時

平成 25 年 1 月 30 日 (水)

午前 10 時から正午まで

2 場 所

愛知県東大手庁舎 4 階 408 会議室

3 出席者

吉久部会長、那須委員、三品委員、岡田専門委員

4 開 会

5 渡邊環境部技監あいさつ

6 吉久部会長あいさつ

7 会議録署名人指名

吉久部会長が、吉久部会長自身と三品委員を指名

8 議 事

(1) 騒音振動部会長代理の選任について

吉久部会長が三品委員を指名し、三品委員が部会長代理に選任された。

(2) 交通騒音・振動の調査結果及び騒音対策等の取組状況について

資料 1 及び資料 2 に基づき事務局が説明。

<質疑応答>

吉久部会長： 平成 23 年度の新幹線騒音調査で環境基準が非達成に転じた地点名はどこで、その理由は何か。

事 務 局： 知立市谷田町の 1 地点であり、レール削正前に測定が行われたためと考えている。

吉久部会長： レール削正で騒音はどのくらい変わるのか。

事 務 局： 1～2 デシベル程度低減すると事業者から聞いている。

吉久部会長： 道路交通振動調査の結果で、30 デシベル未満より小さい値については測定限界を超えているのではないか。

事 務 局： 今後は測定状況を確認するとともに、表記方法について検討していきたい。

岡田専門委員： 自動車騒音の要請限度の測定地点は、平成 21 年から 23

の間で変わっているのか。

事務局： 愛知県の実施分については、変わっていない。市の実施分については、交通量等を考慮して行っていることもあり、変更されている地点もある。

(3) 平成25年度交通騒音・振動の調査計画について

資料3に基づき事務局が説明。

<質疑応答>

岡田専門委員： 県営名古屋空港の航空機騒音の調査は、例年同じ時期に行っているのか。調査は北向き運用のときか。

事務局： 調査は同じ時期で行っている。飛行場の運用については、北向き運用と聞いている。

吉久部会長： 県営名古屋空港の定期便の着陸回数が減ったとのことだが、その他の傾向はどうか。

事務局： 定期便が年間約3,000機減少している。その他は大きな変化はない。

岡田専門委員： NO_x・PM対策として、電気自動車の充電スタンドの整備については現在どうなっているのか。

事務局： 自動車環境戦略の中で、電気自動車等の低公害車は、排出ガスだけでなく、騒音対策としても有効ということで、その普及に取り組んでいる。充電スタンドの整備も進めている。

岡田専門委員： 自動車騒音常時監視業務の県から市への移行に際して、どのようなフォローが行われているか。

事務局： 一般市を対象とした説明会を実施した。年度内にとりまとめや公表方法についての説明会を予定している。また、随時、個別の相談にも対応している。

吉久部会長： 自動車騒音常時監視において、全体の調査地点のうち定点はどれぐらいあるのか。

事務局： 3分の1程度である。

那須委員： 自動車騒音の測定は、市が自ら行うのか。

事務局： 業者に委託して測定する場合もある。

那須委員： 測定の精度管理が重要であるので、しっかり行って欲しい。

事務局： 測定における精度管理の重要性や注意点について説明していき

たい。

吉久部会長：平成24年度の自動車騒音常時監視の測定が一時的に減ることであるが、なぜか。

事務局：今年度から新たに市の調査が始まっているが、すべてを一度に行うのではなく、3年から5年かけて調査することからである。

吉久部会長：平成24年度の県営名古屋空港の航空機騒音の調査地点数はどうなっているのか。そのうち何地点で常時監視が行われているのか。

事務局：調査地点数は変わっていない。常時監視については環境部が1地点、航空対策課が3地点、春日井市が1地点である。その他は、短期調査の地点である。

吉久部会長：中部国際空港の短期調査の期間は、夏季、秋季の各1週間となっているのか。

事務局：測定の調査期間は、測定マニュアルで飛行場のタイプ別に示されており、中部国際空港は1週間とし、また県営名古屋空港は、変動が大きい飛行場にあたり、2週間となっている。

(4) その他

事務局より説明事項なし

9 伊藤大気環境課長あいさつ

10 閉会